

無題

嘘つき

私は正直苦しい

空はあまりに青く高過ぎ

風も心地よ過ぎ

残酷な慰安に取り巻かれ

逃げ場など何処にもない

未来が無いのではなく

明白な未来が在るということ

嘘つき

雑草の白茶けた緑に

あらゆる欲望が操られ

吊り下げられている

今や生と死は問題ではない

私のような者は

独りであることこそが

守るべき全てである

嘘つき

微に入り細にわたる規律

その蜘蛛の糸に纏わりつかれ

荒涼とした街に棲む

没落を身を以て知ること

何と私にふさわしい空気だ

おぼろげな、微熱のような

30年を経て力尽きた国

嘘つき

釣竿を沼面へと伸ばし

自らを餌として鉤針に留め
食らいつかれる時を心待つ
それが一飲みであればよいが
大抵、気ままに食い千切られ
その余は泥へと沈み
今と変わらぬ時間が流れるだろう

嘘つき
眠りなのか
それとも疲れなのか
高ぶっているのか
それとも青息吐息なのか
灰色の小さな蝶の舞い
生き残った下層知識人達は
ニヒリスティックに笑うのか

嘘つき
欲望はもはや存在しえず
全ては外部へ委ねられている
抹消された本能に代わって
自己そのものが怖れている
消滅の不安だけが残り
生物であることを悔やむ者のみが
悲鳴を上げている

嘘つき
受け継がれるもの
自己である 10 年間と
自己でない 70 年間と
そんなもの・・・

嘘つき

(2012.10.21)